

「水俣」をダンスで表現

フランス人舞踏家2人

参加者も市民

フランス人舞踏家のフィリップ・シエールさん(47)とジュリー・サルグさん(45)が19日、熊本県水俣市立水俣病資料館でダンスパフォーマンスを披露した。市民ら約40人が参加し、2人とともにコンテンポラリーダンスを体験した。

2人は、踊る場所の特性に合わせた現代舞踊をする他、神経の難病・ハンチントン病の患者を対象にしたダンスセラピーにも取り組んでいる。ハンチントン病は、意思に関係なく体が動く不随意運動の症状を持つ難病。舞踏と医療の接点をテーマにした研究・発表を続けている。

今回の来日で水俣市にも10〜19日に滞在。運動機能に障害を抱える水俣病患者のほか、保育園児や高齢者などと一緒にダンスセッション

ョンをした。また、水俣病の原因企業チツソンの旧工場(同市古賀町)でもダンスパフォーマンスを披露した。

水俣病資料館では、48個の鉄球が置かれた「水俣メモリアル」で鉄球に体の各所を接触させながら踊った。参加者全員が一行にな

り、フィリップさんの体の動きをまねながら踊りをつないでいくパフォーマンスもあった。

フィリップさんは「水俣という場所から、体を通じてさまざまなインスピレーションを受けた。水俣とのつながりは始まったばかりで、水俣病患者をはじめいろいろな人を手助けできれば」と話した。

【笠井光俊】



水俣病資料館前の芝生ではフィリップさん(左)を先頭に参加者が一列になって踊るダンスパフォーマンスを体験した